

平成26年度第9回「墨田区子ども・子育て会議」
「学齡ワーキンググループ」議事要旨

日時：平成27年1月8日（木）午後6時35分～8時10分
会場：すみだリバーサイドホール会議室

次 第

1 開会

2 議題

議 題	資料
(1) 墨田区子ども・子育て会議学齡部会専門委員会報告について	資料1
(2) 墨田区子ども・子育て支援事業計画 墨田区次世代育成支援行動計画の素案について	資料2
(3) その他	

3 次回の予定

日 時：平成27年 月 日（ ）午後6時30分～8時30分

会 場：

主な議題：墨田区子ども・子育て支援事業計画 墨田区次世代育成支援行動計画について

4 閉会

配布資料

資料1 今後の墨田区における健全育成施策と児童館の役割

資料2 墨田区子ども・子育て支援事業計画 墨田区次世代育成支援行動計画【素案】

出席者(敬称略)

委員

野原 健治（興望館館長）

服部 榮（社会福祉法人 雲柱社理事長）

野口 悦子（主任児童委員）

須藤 太郎（八広小学校長）

金子 里美（NTT労働組合東京総支部執行委員）

< 欠席委員 >

松芳 保（小学校 PTA 協議会会長）
飯田 昌弘（中学校 PTA 連合会会長）
菊本 和仁（桜堤小学校長）
福田 三加代（公募）
内田 淳（青少年委員協議会委員）
森 八一（青少年育成委員会連絡協議会副会長）
小菅 崇行（小菅株式会社代表取締役会長）

< 傍聴 >

なし

課長出席者

関口 芳正（子ども・子育て支援担当部長） 小倉 孝弘（子育て支援課長） 鈴木 一郎（子ども課長） 村田 里美（子育て支援総合センター館長） 前田 泰伯（生涯学習課長）

事務局出席者

柿畑、黒岩、田村、酒井、榊原、石川

事務局(株)地域総合計画研究所)

森井、佐々木

1 開会

委員	これより第9回学齢ワーキンググループ(以下、WG)を開会する。
----	---------------------------------

2 議題

(1) 墨田区子ども・子育て会議学齢部会専門委員会報告について

事務局	(資料1について説明)
委員	報告書について、何かあるか。
委員	「国際化に伴う外国人児童」が加えられ、問題点や現状が書かれていて良いと思う。
委員	小学生への放課後対策を新規施策として入れていただき、ありがたい。
委員	以前、小学校の職員会議において、児童館で行われている事業やコミュニティクラブが何か分からず、児童の生活がよく見えないという指摘を受けたことがあった。地域と学校が相互に情報交換をして協力することで子どもたちの育ちに活かされるため、そのような申し出を行ったことがあった。
委員	報告書には誤字脱字が多いため、精査した方がよい。
委員	事業提案においても、修正や「です・ます調」の統一など、精査してほしい。
事務局	報告書は内容を変えない形で、文言整理を含め、事務局で精査させていただく。

(2) 墨田区子ども・子育て支援事業計画 墨田区次世代育成支援行動計画の素案について

事務局	(資料2について説明)
委員	学童クラブの量の見込みにおいて、高学年は現状の5%を見込んで100名としたが、ニーズ調査で示されたそれ以外の約800名については、自立を促すとともに、児童館と放課後子ども教室で受け入れるとしていた。
委員	児童館での受け入れは可能であろうと判断した。大丈夫であろう。
委員	800名については、これからのことで見えない部分もあるが、数字は活かさなければならぬため、研究しながら進めていくとしていた。ただし、誤解のないように表記しなければならない。
委員	実際の申し込み状況はどうか。
事務局	まだ申込期間中のため、集計が上がってきていない。また、4月から学童クラブが1か所新設されるため、今年度より児童数が増えることが予想される。800名の対応には、居場所づくりとして児童館でどのように預かれるか、児童館に預けたいニーズがどれくらいあるのか、来年度に把握と検討をしたい。そこから出てくる数字を事業化できればと考えている。
委員	計画としては、ここまでの部分しか分からないのではないかと。
委員	夏休みなどの長期休暇でお願いしたいとする人はいるだろう。
委員	低学年から指導して、小学4年の高学年になったら自立できるようにすることが先ではないかと思う。
事務局	事業の記載では「自立」について記載しているが、確保策の今後の方向性では「自立」の記載はしていない。重複となるが、それでも今後の方向性に記載すべきかどうか。
委員	書き込んだ方がよい。また、高学年の補正前と補正後において、100名になった理由や計

	算式を注書きで書けないか。
事務局	補正という言葉を使用すべきかどうか。墨田区では、高学年への対応として、児童館や放課後子ども教室を考えている。量の見込みのニーズとして約 900 名出ている中で、区の対応としては、特別な支援が必要な児童や要保護児童への対応と、一般児童に対する対応の 2 つがある。ここを混同せずに、分けて記載した方が良いかとも考えている。
委員	分けて記載した方が分かりやすい。それにより、注書きの必要性も解消されるだろう。
事務局	量の見込みを、特に配慮が必要とする場合のニーズと、居場所としてのニーズの二段書きではどうか。その上で、特に配慮が必要な児童の算出方法と理由を記載してはどうか。 また、国も、確保策は学童クラブのみの数値の計上となるが、ニーズについては学童クラブでの対応を基本としつつ、高学年は児童館や放課後子ども教室を利用して居場所を確保するのであれば、それらの活用も考えられ、その場合は説明責任を果たすとしている。
委員	では、分けて掲載することでよいか。(特に意見なし) そのように進めるとする。
事務局	表現の方法は考えさせいただく。
委員	また、確保策に「自立」という言葉を用いることでよいか。(特に意見なし) では、記載することとする。

(3) その他

事務局	次回の学齢 WG は未定だが、親会議は 1 月 14 日(水)の 18 時 30 分から、区役所 13 階の 131 会議室で行う。
委員	以上で、閉会とする。

以上